



News Letter No.17

2026/3/31

目次

| | |
|---|----|
| 1. 第 8 回イブニングセミナー | 1 |
| 2. KDDI 総合研究所から実務家講師を招聘(AI・データサイエンス総合) | 1 |
| 3. paiza ランクチャレンジ 2025 結果報告 | 2 |
| 4. ソフトバンク株式会社から実務家講師を招聘(AI・データサイエンス総合) | 2 |
| 5. 法学部授業内で「大学生のためのサイバーセキュリティ講座」 | 3 |
| 6. 客員所員が法学部授業で講評「LEGO と Python でデータサイエンスを学ぶ」 | 4 |
| 7. iDS 酒折ゼミの学生2チームが一般社団法人全日本野球協会「第5回野球データ分析競技会」 決勝に進出(AI・データサイエンス演習) | 4 |
| 8. 第 9 回イブニングセミナー | 5 |
| 9. 東京都職員向けデジタルキャッチアップ研修に難波英嗣理工学部教授が講師として登壇 | 5 |
| 10. AI・データサイエンス演習(iDS 演習)成果報告会 | 6 |
| 11. 岩波書店 雑誌「科学」2026 年 3 月号に樋口知之理工学部教授が寄稿 | 7 |
| 12. 第 10 回イブニングセミナー | 7 |
| 13. 第 11 回統計エキスパート人材育成 中間報告会 | 8 |
| 14. iDS 酒折ゼミ生が情報処理学会第 88 回全国大会にて講演し学生奨励賞を受賞 | 9 |
| 15. iDS 中村ゼミ生が中央大学学生奨励賞「三重野康・高木友之助記念学術奨励賞」を受賞 | 9 |
| 16. 第 11 回イブニングセミナー | 10 |
| 17. 所員 | 10 |

1. 第8回イブニングセミナー

2025年12月2日(火)、後樂園キャンパス産学官連携・社会共創フロア(3号館14階)にて、株式会社ビーアイシーピー・データより渡邊桂子様を講師に迎え「ビジネス現場におけるAIガバナンスの今」と題して講演を行いました。

渡邊氏はこれまで、外資テックベンダーなどで最先端テクノロジーを活用したマーケティングソリューションの導入支援やローカライズ等を担当した経験から、データ活用の前提としてのガバナンスの重要性に注目するようになり、特にプライバシー保護を推進する活動をされています。



株式会社ビーアイシーピー・データ
渡邊桂子氏

講演では、ビジネス現場におけるAIの開発・利用に伴うリスクを管理し、倫理的・法的・社会的な基準を守りながら、AIの利便性を最大化するための仕組みや体制、いわゆるAIガバナンスの重要性についてお話いただいたのち、参加者との活発な質疑応答がありました。

参加者からは「倫理的・法的・社会的課題への取り組みがブランディングと紐づいた点が大変参考になるとともに、共感できた」「企業でAIガバナンスに取り組む立場として、改めて整理することができる貴重な機会となった」などのコメントが寄せられ、参加者にとって実務に直結した知見を得る貴重な機会となりました。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、AI・データサイエンス領域での社会連携を通じて、これからも社会の発展に貢献してまいります。



榎山所長ご挨拶



講演の様子



講演の様子

[リンク:公式WEB 新着ニュース](#)

2. KDDI 総合研究所から実務家講師を招聘(AI・データサイエンス総合)



株式会社 KDDI 総合研究所
福元徳広氏

12月6日(土)学部間共通科目「AI・データサイエンス総合」では「AI・データサイエンスの標準化の取り組み」と題して、株式会社 KDDI 総合研究所 福元徳広氏に講義いただきました。

福元氏は株式会社 KDDI 総合研究所で、情報通信に関する研究開発や標準化活動をされています。

本講義では、通信事業者の視点から課題解決に向けた AI・データサイエンスの活用事例や、実際にビジネスに導入する際に考慮すべき事項について講義いただきました。2回のオンデマンド授業に続き、今回は多摩キャンパスと後樂園キャンパスをオンラインでつないだ合同対面授業を行いました。また授業では、福元氏から標準化の定義や顧客体験管理の標準化動向などの解説の後に、国内外のAI原則や標準化団体におけるデータサイエンスに関する標準化動向についてご紹介がありました。さらに学生からの質問にも丁寧にお答えくださり、学びを深める良い機会となりました。

科目「AI・データサイエンス総合」について

「AI・データサイエンス全学プログラム」の科目「AI・データサイエンス総合」は、私たちをとりまく経済社会のなかで AI・データサイエンスがどのように活用されているのか、実践例を複数名の実務家から学んでいます。

授業の形式は、オンデマンド型授業と、対面もしくはオンラインで学ぶハイフレックス型講義をミックスした形式で展開されています。2回のオンデマンド型授業において「AI・データサイエンスの活用事例」、「課題解決に向けた AI・データサイエンスの導入の進め方」の講義の後、3回目の合同対面授業により、講師との議論を行い、総合的な理解を目指していきます。



伊藤篤経済学部教授



授業の様子(多摩キャンパス)

[リンク:
AI・データサイエンス全学プログラム](#)

[リンク:公式WEB 新着ニュース](#)

3. paiza ランクチャレンジ 2025 結果報告

paiza ランクチャレンジは、paiza 株式会社と中央大学 AI・データサイエンスセンターが共同して実施したイベントで、paiza 株式会社が提供するプログラミング学習サービス「paiza ラーニング」を希望する方(対象:中央大学の学部生・大学院生、本年度は附属校の生徒)に無料で提供するとともに、実施期間(2025年6月から10月)内で paiza ラーニングスキルチェックのランクと回数が高い参加者を表彰するプログラミング学習の応援企画です。2023年から毎年実施しており、今年も中央大学と中央大学附属横浜高校から196名の学生・生徒が参加しました。



参加者の皆さんがチャレンジ期間中に獲得したスキルランクや、スキルチェックへの取組数をもとに、ランク賞(S・A・Bランク取得者 20名)とトロフィー賞(スキルチェック実施回数の上位20名)が選出され、表彰状と副賞の Amazon ギフトカードが授与されました。W受賞者は高校生を含めて13名に上りました。上位入賞者には大学生が多いなか、中央大学附属横浜高校からは2名がランク賞とトロフィー賞の両方を受賞し、さらにスキルチェックの最高ランクであるSランクを取得するという素晴らしい結果を収めました。開催3年目となる今年は参加者こそ減少したものの、Bランク以上の受賞者が20名に達したことは、参加された皆さんの努力と継続的なチャレンジの成果であり、大変意義のある結果を残して、今年のランクチャレンジは閉幕しました。

【paiza ランクチャレンジ 2025 参加者の取得ランク結果】

Sランク:4名/Aランク:2名
Bランク:14名/Cランク:10名
Dランク:12名/E・Fランク:154名
(2025年10月31日時点)



W受賞
中大附属横浜高校
畔地さん



W受賞
中大附属横浜高校
山村さん



トロフィー賞受賞
中大附属横浜高校
菅さん

[リンク:「paiza ラーニング」学校フリーパス](#)

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

4.ソフトバンク株式会社から実務家講師を招聘(AI・データサイエンス総合)

1月10日(土)学部間共通科目「AI・データサイエンス総合」にて、ソフトバンク株式会社の山下勝司氏と荒哉太氏、松永隆太郎氏、町田兼梧氏、竹内悠生氏を講師に迎え、「デジタルトランスフォーメーションの導入と開発に関する議論」と題して講義とグループワークを行いました。

当日は、多摩キャンパスと後楽園キャンパスをオンラインでつないだ合同対面授業を行いました。

まず講義では、荒氏から、これまで2回のオンデマンド授業内容を踏まえて、デモ実演を行いました。デモ実演では、「駐輪場の混雑可視化」をテーマに ChatGPT でコードを生成したのち Google Colab でコード実行するといった一連の流れを説明し、エラーメッセージが出た場合の対処方法も紹介しました。続いて、1グループ6人程度のグループワークに移りました。グループワークでは、AIを使ったビジネス企画を立案し、目的のAIを動かすコードを生成し実行するところまで行いました。学生たちは、冒頭のデモ実演を参考にしつつアイデアを出し合い、また先生方の助言を受けながらコード生成やコード実行を行いました。最後に各グループから、検討した企画内容や利用したAI技術、プロンプトの内容、動作結果、うまくいった点や苦労した点などの発表を行いました。これを受けて荒氏から丁寧で寄り添ったご講評をいただき、講義は終了となりました。



ソフトバンク株式会社 荒哉太氏



グループワークの様子
(多摩キャンパス)



グループワークの様子
(後楽園キャンパス)

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

5.法学部授業内で「大学生のためのサイバーセキュリティ講座」



吉岡良平氏 (株式会社ラック)



高橋隆司氏 (警視庁)

1月20日(火)茗荷谷キャンパスでの法学部授業「情報処理2」(2・3限)において、この授業の担当教員で本センター専任所員でもある岡田大士法学部教授が、2人のゲスト

スピーカーを招いて「大学生のためのサイバーセキュリティ講座」を開催しました。

講座では、まずは吉岡良平氏(株式会社ラック)に「身近になっている AI・デジタル時代のリスクに備える」と題して講演していただきました。講演では、ネットや SNS 上には個人情報やそのヒントがあり、情報漏洩や犯罪に利用されるリスクがあることを意識して利用すること、また詐欺に遭わないよう自分の知識と知恵を使って自衛することなどを事例を交えて具体的に紹介されました。さらに近年の AI の急速な進化に伴い、AI が詐欺を働くようになっていたり、AI がきちんと機能しないようする AI に向けたサイバー攻撃があり、誤判断、セキュリティの脆弱性、信頼の低下、経済的損失、公平性と倫理への影響があることが示されました。最後に、一人一人が適切な情報モラル・リテラシーを持ち、デジタルシチズンシップを育むことの大切さが説かれました。

続いて高橋隆司氏(警視庁)から「サイバー空間における脅威」と題して講演していただきました。講演では、これまで減少傾向だった刑法犯認知件数が 2022 年から増加に転じていて、財産犯(窃盗・詐欺)の件数も被害総額も増加していることや、SNS を入り口にした闇バイトやオンラインカジノの実態、こういったサイバー犯罪に対する新たな捜査手法などについて、動画や具体的事例を交えて紹介されました。また、犯罪に巻き込まれそうになったら最寄りの警察に相談してほしいと呼びかけました。

いずれの講演も、サイバー犯罪の被害者に若年層が多く、若者の恋愛感情や金銭への興味に付け込んだロマンス詐欺や投資詐欺が横行している実態とその対処方法について紹介されたことから、同年代である学生たちも非常に真剣な表情で聴講していました。

講演者略歴

<吉岡良平氏>

所属 株式会社ラック サイバー・グリッド・ジャパン ICT 利用環境啓発支援室
役職 シニア・フェロー

略歴 システム開発会社にて医療系情報システムの開発・企画等を担当。その後青年の安全なネット利用に関する社団法人を経て、現在セキュリティ企業の株式会社ラックにおける研究所で情報リテラシー・情報モラル啓発に関する研究に従事。

<高橋隆司氏>

所属 警視庁 サイバーセキュリティ対策本部

職位 人材育成担当管理官

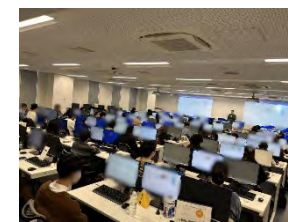
階級 警視

略歴 平成12(2000)年に警視庁入庁後、25年にわたり、警備や人事・教養といった分野で勤務。現在は警視庁サイバーセキュリティ対策本部人材育成担当管理官としてサイバー人材の育成に従事。

中央大学と警視庁は、教育・研究活動の交流および連携・協力を推進することを目的として、2019年に「サイバーセキュリティ人材の育成に関する産学官連携についての協定」を締結しております。



岡田大士法学部教授



講義風景

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

6. 客員所員が法学部授業で講評「LEGO と Python でデータサイエンスを学ぶ」

1月19日(月)茗荷谷キャンパスでの法学部授業「情報処理論 B2」において、この授業の担当教員で本センター専任所員でもある岡田大士法学部教授が受講生の成果発表を催し、客員所員の田辺修都氏(株式会社アフレル)からご講評をいただきました。

当該授業はロボットプログラミングキット(LEGO Spike)を用いて、汎用のプログラミング環境として Python を扱い、ロボットを操作します。ロボットが測定した数値を利用して、データサイエンスの基本を学びます。当日はプログラミングおよび測定方法の設計・実践を経た成果発表でした。

当日はアフレル社が設計した「みかん選別ロボット」を LEGO で組み立てました。重さの異なるレゴブロックに色の濃度が異なるみかんのシールを貼付し、色(濃い・中間・薄い)と重さ(重い・中間・軽い)という 2 種類の数値の組み合わせを蓄積したうえで、「近傍法」という手法を使い、「出荷できる・出荷できない」を判断させる機械学習を実践しました。センサーからの距離を変えて学習したらどうなるか、回数を限定して学習したらどうなるか、それぞれテーマを設定した学生が成果を発表し、レゴ®エデュケーション認定トレーナーである田辺客員所員が講評しました。

この科目で学んだことを通じて、どのようにデータをとると良いか、与えられたデータをどのように分析するか引き続き考えていきたいとの感想が学生から寄せられました。岡田教授より、情報処理技術の理論と実践・社会実装のあり方を学ぶことにより、法学部で学ぶものに求められる「批判的・創造的態意」および「広く深い教養に裏打ちされた理性的態度」を養うことにつながるのお話があり講義は終了となりました。



LEGO で作成したみかん選別ロボット



田辺修都客員所員 (株式会社アフレル)



学生にアドバイスを岡田教授

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

7. iDS 酒折ゼミの学生2チームが一般社団法人全日本野球協会「第5回野球データ分析競技会」決勝に進出(AI・データサイエンス演習)



酒折文武理工学部准教授

iDS 酒折ゼミの学生 2 チームが、ゼミ活動の一環として一般社団法人全日本野球協会主催の「第 5 回野球データ分析競技会」に参加し、決勝に進出しました。

本競技会はこれからの野球界を支えるデータと指導現場をつなぐアナリストやデータサイエンティスト、コーディネーター人材の育成を目的として、学生(高校、大学、大学院)が1名~3名1チームで、野球のトラッキングデータを与えられた時間内で分析を実施、その発表内容を競うイベントです。

今年は例年の応募を大幅に超える 25 組の参加申し込みがあり、厳正な審査の中から選ばれた 6 組が 2 月 15 日(日)にプレゼンを行いました。

決勝に残った iDS 酒折ゼミの学生 2 チームは、他大学のチームとともに、プレゼン前日に開示される課題データを分析し、宿舎で検討のうえ、翌日プレゼンを行いました。

科目「AI・データサイエンス演習」について

AI・データサイエンス全学プログラムの演習科目「AI・データサイエンス演習」(通称:iDS Intermediate Program for Data Science and AI)は、中央大学の全学部生が集う演習活動です。AI やデータサイエンスに関心のある学生が全学部から集い、2 年次から 3 年間、共同してグループワークを行います。

[リンク:AI・データサイエンス全学プログラム\(Connect Web\)](#)

[リンク:AI・データサイエンス全学プログラム](#)

[リンク:酒折文武\(中央大学研究者情報データベース\)](#)

[リンク:一般社団法人全日本野球協会 第 5 回野球データ分析競技会](#)

[リンク:一般社団法人全日本野球協会](#)

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

8. 第9回イブニングセミナー

1月23日(金)、後楽園キャンパス産学官連携・社会共創フロア(3号館14階)にて、株式会社日本経済新聞社より安井雄一郎氏を講師に迎え「メディアにおける課題の整理と解決」と題して講演を行いました。

安井氏は、2016年12月まで中央大学や九州大学でコンピュータに適したアルゴリズムの設計と実装に関する研究に従事しており、2019年4月より日本経済新聞社 日経イノベーション・ラボ上級研究員として、自然言語処理を用いた情報抽出、セマンティックウェブ技術、グラフデータベースを用いたデータ活用などに取り組んでいます。



株式会社日本経済新聞社 安井雄一郎氏

講演では、日本経済新聞社で実際に取り組んだ事例(トレンド分析・シフトの最適化など)をもとに、課題の発見から数理最適化や行動分析、データ解析などの手法を用いて解決に至るまでのプロセスを具体的にお話いただいたのち、参加者との事例に関する活発な質疑応答がされました。

参加者からは「さまざまな取り組み事例のご紹介があり、シフト課題はたしかに複雑で難しいものだと感じつつ、最適解もなかなか思いつけなかったので参考になった」「データによるタグの分析について理解が深まった。単語による文章の紐付けの分別が行えるようになるかと思った」といった具体的な意見が寄せられ、参加者にとって実務に直結した知見を得る貴重な機会となりました。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、AI・データサイエンス領域での社会連携を通じて、これからも社会の発展に貢献してまいります。



榎山所長ご挨拶



講演の様子



講演の様子

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

9. 東京都職員向けデジタルキャッチアップ研修に難波英嗣理工学部教授が講師として登壇

東京都デジタルサービス局が主催する東京都員向けデジタルキャッチアップ研修に、本センター専任所員(専門分野:自然言語処理、情報検索)の難波英嗣理工学部教授が登壇し「生成AIの仕組みとリスク・活用法」と題して講演を行いました。

2月6日(金)に新宿NSビル24階にて行われた本研修は、東京都職員が業務で生成AIを適切に活用するため、基礎的な生成AIの仕組み・リスクや活用方法についての理解を深めるなど、AIリテラシーの向上を図ることを目的としております。また会場で約40名、オンラインで約180名と大変多くの職員の方々が参加され、その関心の高さと、業務における生成AIの存在感の高まりをうかがうことができます。

講演では「生成AIを安全に使用する」ことをゴールに、生成AIの仕組みや昨今の状況を概説した後、あらかじめ参加者から寄せられた実務に即した質問内容を踏まえ、事務で使えるプロンプトのテンプレートを提示したり、ハルシネーションを防ぐノウハウや、生成AIの特徴やリスクを理解したうえでの利用の心得を解説しました。

講演後に設けられた参加者との質疑応答では、講演内容を深掘りする質問が予定時間に収まらないほど多く寄せられ、また難波教授も一つ一つ真摯に回答されていました。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、AI・データサイエンス領域での社会連携を通じて、これからも社会の発展に貢献してまいります。



難波英嗣理工学部教授



難波英嗣理工学部教授



講演風景

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

10.AI・データサイエンス演習(iDS 演習)成果報告会

2月3日(火)後楽園キャンパスにて AI・データサイエンス演習(通称:iDS Intermediate Program for Data Science and AI)の成果報告会が開催されました。

成果報告会は、iDS 演習の4つのゼミに所属する学生が一堂に集まり、1年間の活動成果を発表する場です。今回は10件の口頭発表と14件のポスター発表がありました。

成果報告会は発表者としての参加のみならず、報告会の計画、企画運営も学生が主体となって実施しています。それぞれのゼミから実行委員が集い、企画をとりまとめて運営しました。

iDS 演習は、2年次から4年次まで3年間のゼミ活動を行う授業であり、各種コンペにおける受賞や学外団体との連携等の活動が重ねられることで、今回の成果報告会では、白熱した質疑応答が展開されました。

発表後の交流会では、異なるゼミに所属する学生同士の会話もはずみ、充実した時間となりました。

iDS 演習は、中央大学の全学部生が集う演習活動です。AIやデータサイエンスに関心のある異なる専攻の学生が集い、共同してグループワークを行います。

◆口頭発表

- ・酒折ゼミ 麻雀データ分析
- ・中村ゼミ ポストコロナの働き方とメンタルヘルス
- ・酒折ゼミ Tリーグチームのアナリスト業務効率化
- ・澤部・飯尾ゼミ SNS 利用と Well-being
- ・酒折ゼミ 選手評価、麻雀 AI
- ・酒折ゼミ 物体検出を用いたぶよぶよ盤面抽出
- ・澤部・飯尾ゼミ 図書館の貸し出しデータに残らない利用の可視化
- ・酒折ゼミ トッププレイヤーを『教師』にする。
ログデータを用いた模倣型 AI の開発
- ・中村ゼミ 要介護者の増加抑制に向けた政策提言
- ・酒折ゼミ データサイエンスの観点から考える大谷翔平の長打力向上プラン

◆ポスター発表

- ・ウェルビーイング×人生百年時代—社会的フレイル対策として高齢者の孤食解消を解消するアイデアを提案—
- ・健康診断の受診が平均寿命及び健康寿命に及ぼす効果
- ・企業データを対象とした調査
- ・日本人学生とタイ・マレーシア人学生の英会話分析
- ・YouTube のサムネイル分析
- ・駅広告の配置環境に関する客観的特徴量の分析
- ・キャリア意識と就職活動
- ・国立・私立中学校進学のための経済的効果
- エントロピーバランシングを用いた因果推定 -
- ・iDeCo 制度改定と金融態度が加入行動に与えた影響
- ・RAG を用いた討論 AI の作成
- ・ラジオ生成 AI の作成
- ・Alpha Zero を用いたリバーシアプリ
- ・SNS におけるエコチェンバーの解消
- ・情報探索型学習アプリ なんてマップ



口頭発表の様子



口頭発表の様子



ポスターセッション



交流会

[リンク:AI・データサイエンス全学プログラム\(Connect Web\)](#)

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

11. 岩波書店 雑誌「科学」2026年3月号に樋口知之理工学部教授が寄稿

2月20日に岩波書店から刊行された雑誌『科学』2026年3月号の特集「自然を科学する」の中で、AI・データサイエンスセンター顧問も務める(専門分野:統計的モデリング、機械学習)樋口知之理工学部教授が、「崩れつつある第一原理主義的科学思考——データ駆動が生み出す新しい計算の形」を寄稿しました。



樋口知之理工学部教授
AI・データサイエンスセンター
顧問

本書の中で、樋口教授は以下の要旨で論じています。「対象が従う支配方程式を数値積分して得られる結果だけを正しい推論とみなし、計測・観測によって得られるデータの情報を計算結果に反映させることを避ける姿勢を、ここでは便宜的に『第一原理主義』と呼ぶことにする。支配方程式は、確かな理論的根拠をもつとされる計算物理の分野では、長年このような考え方が自然に受け入れられてきた。しかしながら、データが質・量ともに急速に豊かになるなかで、その情報を計算に直接取り込むアプローチが幅広く浸透しつつある。計算物理の分野におけるAIの導入は、現在大きな潮流となっている。」

ご関心のある方は、ぜひご覧ください。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、これからも AI・データサイエンス領域に係る研究活動を通じて、社会に貢献してまいります。

[リンク:岩波書店「科学」2026年3月号](#)

[リンク:樋口知之 研究者紹介\(中央大学研究者情報データベース\)](#)

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

12. 第10回イブニングセミナー

2月24日(火)、後楽園キャンパス産学官連携・社会共創フロア(3号館14階)にて、西口浩司名古屋大学大学院工学研究科准教授を講師に迎え「AIが”かたち”を創る—力学を理解するAIから、対話で設計するAIまで—」と題して講演を行いました。



西口浩司名古屋大学大学院
工学研究科准教授

西口氏は、広島大学大学院工学研究科博士前期課程修了後、日東電工(株)にて研究開発に従事。博士(工学)修得後、理化学研究所計算科学研究機構(現・計算科学研究センター)特別研究員を経て現職となり、現在は「AI for Science」の領域に注力されています。

講演では、AIの進化が人類史にない加速度で進むなか、現在の生成AIの限界と日本の製造業の強みを踏まえ、日本が勝機を見出すことができる技術分野として『物理法則を理解した3次元形状の生成AI』を提唱しました。またこの生成AIで、製造業の設計現場にある諸課題に取り組んだ事例を紹介しました。最後に今後の課題として、アカデミアの知をビジネスとして持続的発展可能なエコシステムにより社会実装していくことの必要性や、力学と生成AIの双方に精通した人材の育成の重要性について、お話しいただきました。

講演後に参加者との活発な質疑応答もあり、参加者のアンケートにて「製造業におけるAIの活用がとても興味深かった」「講演内容が自分のビジネスでも応用できる気がした」といった意見が寄せられるなど、有意義な機会となりました。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、AI・データサイエンス領域での社会連携を通じて、これからも社会の発展に貢献してまいります。



榎山所長ご挨拶



講演会の様子



情報交換会の様子

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

13. 第 11 回統計エキスパート人材育成 中間報告会



樋口知之理工学部教授
AI・データサイエンスセンター顧問
による開会挨拶



榎山和男理工学部教授
AI・データサイエンスセンター所長
による本センターの説明

2月26日(木)に本学後楽園キャンパスにて「第11回統計エキスパート人材育成中間報告会」が開催されました。

統計エキスパート人材育成プロジェクトは文部科学省が推進する事業で、統計学の教育・研究指導を担う大学教員と統計エキスパートの育成を目的としており、本学は統計エキスパート人材育成コンソーシアムの参画機関となっています。

今回の中間報告会では、本学理工学部ビジネスデータサイエンス学科および AI・データサイエンスセンターの教育方針・現状および今後の計画を学ぶとともに、統計に関するメンター・育成対象者の講演を通じて統計エキスパートとしての知見を広めること、対面でのコミュニケーションを通じて今後の研修における情報交換を密にすることを目的として、研修成果の共有と今後の展望について活発な議論が行われました。

午前中には自由参加形式の情報交換会が行われ、研修生や関係者が交流を深めました。午後の中間報告会では、本センター顧問の樋口知之理工学部教授より、開会挨拶として生成 AI 時代における統計エキスパートの立ち位置について説明がなされ、続いて本センター所長の榎山和男理工学部教授から本センターの取り組みについて紹介がありました。その後、研修生等から、コサイナー回帰やファンド金利に基づく実証分析、データサイエンス PBL 科目の取り組み事例、周辺構造モデルとモデルに基づく標準化

といった研究発表がありました。その内容は多岐にわたり、参加者は新たな知見が得られました。

報告会後の情報交換会では、参加者同士で和やかに意見交換が行われました。



第4期研修生 丸千尋理工学部助教
AI・データサイエンスセンター専任
所員による発表



中間報告会の様子



情報交換会の様子



参加者集合写真

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

14. iDS 酒折ゼミ生が情報処理学会第 88 回全国大会にて講演し学生奨励賞を受賞

3月6日(金)に松山大学にて開催された「情報処理学会第88回全国大会」において、iDS 酒折ゼミの中本陸斗さん(理工学部電気電子情報通信工学科4年)が、ゼミでの研究成果を「麻雀における得失点予測モデルを用いた選手評価手法の構築」として講演し、学生奨励賞を受賞しました。

情報処理学会は、1960年の設立以来、発展する情報処理分野で指導的役割を果たすべく活動されています。また、今回の研究概要は以下の通りとなります。

麻雀における選手評価は、平均着順や和了率などの結果指標に基づくものが一般的ですが、これらは試合中の意思決定の価値を十分に捉えられていないものでした。今回の研究では、サッカーにおけるプレー評価手法である VAE (Valuing Actions by Estimating Probabilities) の考え方を麻雀に応用し、各局面での行動が得点確率および失点確率をどの程度変化させるかを予測する枠組みを構築しました。具体的には、大規模対局データを用いて CNN などの機械学習モデルにより得点確率モデルと失点確率モデルを学習し、その確率変化に基づいて各行動の価値を定義することで、試合中のすべての行動を反映した選手評価指標を提案するものです。天鳳の大量対局データを用いた実験では、提案指標は従来指標と比較して、少数試合でも比較的安定した評価が可能であることが示されました。

[リンク:一般社団法人情報処理学会](#)

[リンク:情報処理学会第88回全国大会](#)

[リンク:酒折文武\(中央大学研究者情報データベース\)](#)

AI・データサイエンス全学プログラムの演習科目「AI・データサイエンス演習」(通称:iDS Intermediate Program for Data Science and AI)は、中央大学の全学部生が集う演習活動です。AI やデータサイエンスに関心のある学生が全学部から集い、2年次から3年間、共同してグループワークを行います。

[リンク:AI・データサイエンス全学プログラム](#)

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

15. iDS 中村ゼミ生が中央大学学生奨励賞「三重野康・高木友之助記念学術奨励賞」を受賞

iDS 中村ゼミの富田佑奈さん(総合政策学部3年)と中嶋慧人さん(文学部3年)の論文「ポストコロナの働き方とメンタルヘルス—ディーセント・ワークに向けた政策提言」が、2025年度中央大学学生奨励賞「三重野康・高木友之助記念学術奨励賞」を受賞しました。

三重野康・高木友之助記念学術奨励賞は、三重野康元日本銀行総裁および高木友之助元総長の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、学部学生のうち、経済、金融、政策等の諸科学の分野で、卓越した成果を収めた者に授与するものです。

今回の研究では、ポストコロナ期におけるテレワーカーのメンタルヘルスに影響する要因を実証的に明らかにし、政策提言を行うことを目的としており、リクルートワークス研究所の「全国就業実態パネル調査」のデータを用い、ハイブリッドモデル(固定効果+ランダム効果)によるパネル分析を行いました。その結果、テレワーク時間とメンタルヘルスには非線形の関係があり、適度なテレワークは改善と関連する一方、週約24時間を超える長時間テレワークは悪化と関連することが示されました。また、仕事の裁量度はメンタルヘルス改善と関連し、通勤時間の長さ、業務負荷の増加、6歳以下の子どもが存在は不調と関連していました。さらに独自のウェブアンケート調査も実施し、これらの結果を踏まえ、テレワーク導入ガイドラインの改訂とオンライン相談機会の拡充を提言しています。

[リンク:2025年度中央大学学生奨励賞受賞者案内](#)

[リンク:中村周史\(中央大学研究者情報データベース\)](#)

AI・データサイエンス全学プログラムの演習科目「AI・データサイエンス演習」(通称:iDS Intermediate Program for Data Science and AI)は、中央大学の全学部生が集う演習活動です。AI やデータサイエンスに関心のある学生が全学部から集い、2年次から3年間、共同してグループワークを行います。

[リンク:AI・データサイエンス全学プログラム](#)

[リンク:公式 WEB 新着ニュース](#)

16. 第11回イブニングセミナー

3月18日(水)、後楽園キャンパス産学官連携・社会共創フロア(3号館14階)にて、株式会社NTTデータ・ニューソン取締役執行役員コーポレート統括室長の中川慶一郎氏を講師に迎え「システム・インテグレータにおけるデータサイエンス」と題して講演を行いました。



株式会社NTTデータ・ニューソン
中川慶一郎氏

中川氏は、早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了後、NTTデータに入社され、データサイエンスの研究開発からビジネス・アナリティクスのコンサルティングまで幅広く活動されています。また、2019年よりグループ会社にてビッグデータ基盤構築からAIソリューションまでワンストップで提供するビジネスを展開されています。

講演では、データ分析・AI活用の実践と課題を、システム・インテグレータ(SIer)の立場から体系的に整理されました。まず、IT業界におけるビジネス・インテリジェンス(BI)からビジネス・アナリティクス(BA)、さらにAIへ至る分析技術発展の流れを振り返り、単なる「見える化」から、予測・最適化・意思決定支援へと分析の価値が高度化してきたことを示されました。そのうえで、分析を「集計分析型」「発見型」「プロアクティブ型」「WHAT-IF型」の4つの分析シーンと、業界を横断して共通化可能な「9つの分析シナリオ類型」で整理され、これらについて詳しく説明いただきました。

最後に、技術が変わったり進化したとしても「スピード(比較対象よりも少しでも速いこと)」「意思決定品質の向上」「知的作業の効率化・自動化」という価値は変わらないということや、今後求められるデータサイエンティスト像についてお話いただきました。

講演後には参加者との活発な質疑応答もあり、参加者のアンケートにて「学際的な内容と実社会における実用性、SIerの視点でのビジネス貢献など、大局的な理解を深めるのに大変役立った」「実務家の話は面白いしリアリティがある」といった意見が寄せられるなど、有意義な機会となりました。

中央大学 AI・データサイエンスセンターは、これからも AI・データサイエンス領域に係る研究活動を通じて、社会に貢献してまいります。



櫻山所長ご挨拶



講演会の様子

[リンク:公式WEB新着ニュース](#)

17. 所員

AI・データサイエンスセンター 所員

専任所員数 74
客員所員数 12

(2026.3.31 当日予定)

所属別 専任所員内訳



所員一覧は、[こちらのリンク](#)をご覧ください

中央大学 AI・データサイエンスセンター
ニュースレター No.17

発行日:2026 年 3 月 31 日発行

発行所:中央大学 AI・データサイエンスセンター事務室
〒112-8551東京都文京区春日1-13-27
ai-and-ds-grp@g.chuo-u.ac.jp
[https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/ai and ds/](https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/ai%20and%20ds/)

表紙:中央大学理工学部写真会
<https://www.instagram.com/chuophotoclub/>

【学祭展】より

題 名:「小さなめぐり星」

撮影者:富塚明日香さん(応用化学科3年)